

## ソフトで交流!

櫻 葉 内 五 子 学 習 三 文

総合科学部学生 梶 原 英 二

ヘルメット・サングラス・マスクで変装し手に竹やりを持った人達がずらりと並んでいた入学式会場から自分の大学生生活は始まりました。その場の雰囲気やや圧倒されましたが、今ではまったく慣れてしまっています。そこに4年間の精神的な成長ぶりを見てとるのは自分だけでしょうか。また、「卒業式も同じ光景が見られるのかな。」と思うと、卒業式にもう一つ彩り(?)が添えられると思っているのも自分だけでしょうか。いずれにせよ、ほんとうにアッと言う間の4年間でした。

卒論も追い込みに入った1月に、偶然廊下で出会ったM教官からこの原稿を依頼されてしまいました。執筆にあたり、4冊の手帳に目を通してみても、また自分自身で大学生活を振り返ってみても、これと言って取り上げるほどの題材がありませんでした。そこで「総科」と言って連想されるソフトボールについて書こうと思います。

総科は年に2回ソフトボール大会を催すほどソフトが盛んです。幸か不幸か、外国語コースは女性が多い(各学年で男は1~5人)ので、春季・秋季のソフト大会にコースとして参加することが難しく、実際自分も今までに1回しか参加したことがありません。しかし学生は言うまでもなく、コースの教官方は自らチームを作り、月に1回の割合で他大学のチームと試合をなさるほど、ソフトが好きです。そして、そのチームに初めて加わったのが3年生の秋でした。試合前のバッティング練習で教官方が想像していた以上に大きな当たりを飛ばすので、学生が(自分を含めて)驚いたのを今でも覚えています。その日は3試合くらいして、その後、I先生のお家で夕

飯をごちそうになり、「スクランブル」という英単語を並べるだけが頭をちょっぴり使うゲームをして楽しいひとときを過ごしました。4年生になると「学生」VS「教官」という対戦形式が半ば定着して、ソフト熱ががぜん高まりました。これはひとえに試合の多くを企画してくれた63男子のおかげです。この場を借りてお礼を述べたいと思います。——Thank you!「今年もよろしく!また、63,00生の女子もよく参加してくれました。しかも試合ごとにうまくなり、悔れない存在になりました。今年もさらにおもしろくソフトができると思います。

教官方とボールを交えて語り合うことは、ほんとうに楽しく有意義なことです。講義を受けたことのない教官と知り合いになれるほかりか、普段では見ることができない教官の違った面をいろいろと知ることができます。総科は教官を全国から公募するので、優秀でユニークな教官方が多いのですが、ソフトをなさる教官方も負けてはいません。いい意味で、一癖二癖どころか、百癖くらいある教官ばかりです。好不調の波が激しくて荒れ玉の多いM教官、手元で微妙に変化するボールを投げるN教官、元巨人の山倉よりも意外性のあるK教官、写真を撮っていて後でフィルムが入っていないのに気が付いた、ちょっぴりおちゃめなY教官など、おもしろいエピソードはまだたくさんあります。

教官と学生、そして学生と学生の縦のつながりがソフトを通じて出来つつあると思います。自分は大学院に進学するので、今後もソフトを通じて交流をより深めたいと思います。